

2016年3月期 第1四半期決算説明会 質疑応答

2015年8月4日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：第1四半期の業績は、上期および通期の業績予想に対し高い進捗率となったが、業績予想の上方修正はしないのか？

A1：業績の進捗は想定を上回ったが、今後の業績見通しに不確定な要素があるため、見直していない。一つは、血液システムカンパニーにおいて、今期に見込まれる米国での価格下落がまだ顕在化していない事である。また、下期に **Ultimaster** の日本での販売を予定しているが、発売時期等により売上は変動する可能性がある。これらの要因に伴う業績への影響額を正確に見極めるためには、もう少し時間が必要と考えている。

Q2：海外 IS、ニューロバスキュラー事業が好調な要因は？

A2：米国では、リーマン・ショック以降、コロナリー市場の伸びがしばらく止まっていたが、最近再び伸び始めてきたように思われる。加えて、テルモが普及を推進している **TRI** の普及率が再び拡大する傾向が見られ、**TRI** 関連製品が堅調に推移している。ニューロバスキュラー事業では、コイル以外の新製品を継続的に投入しており、その効果が出ている。

Q3：中国のヘルスケア市場に変化はあるか？また、第1四半期の売上は大幅な増収となったが、想定を上回ったのか？

A3：足元で特に大きな変化はない。前期に実施した代理店体制の見直しが完了し、当四半期は想定を上回る増収となった。今期は昨年落ち込んだ分を取り戻し、大きく伸ばしていきたい。

Q4：Ultimaster の売上の状況と今後の見通しについて。フランスでも既に保険償還の承認を取得しているが、計画以上に上振れする可能性は？

A4：欧州での売上は好調に推移しているが、計画では、今期は日本での売上が最も貢献すると見ている。日本での売上をどの程度増やす事ができるかによると考えている。

Q5：米国で Misago の販売を開始したが、販売後の状況は？

A5：販売を開始したばかりであり、まだ何とも言えない。売上を伸ばすためには、時間を掛けて取り組んでいく必要がある。今期の計画でも大きな額は見込んでいない。

Q6：TCVS の費用の進捗は？

A6：第1四半期の費用は計画よりも若干少なかったが、ほぼ計画通り進捗している。今期の計画では、下期に比べて、上期に多く費用が発生する見込みである。

Q7：日本のホスピタル事業について、市場環境に回復の兆しが見えてきたとの説明があったが、第2四半期以降の見通しは？

A7：当四半期の国内での増収は、前年同期の売上が、消費税増税の影響等により水準が低かったことが主な要因である。ディスプレイ（使い切り）の製品は回復の兆しが見られるが、輸液ポンプなど設備系の製品に対する需要は弱い状況が続いている。もう少し様子を見ないと、本格的な回復基調に転じたのかを判断する事は難しい。

Q8：営業利益の増減要因の内、価格下落の影響が前年同期比 21 億円のマイナスとなっている。この内、血液システムカンパニーにおける米国での価格下落の影響は？また、第2四半期以降の価格下落の見通しは？

A8：価格下落 21 億円の内、血液システムでの価格下落は約 5 億円であった。第2四半期以降、米国での価格下落の影響が顕在化し、マイナスの影響額は大きくなると見ている。

Q9：営業利益の増減要因の内、為替の影響が 4 億円のプラスと少ないように思われる。また、血液システムカンパニーの事業利益は為替の影響がマイナスに効いている。対ドルでは円安、対ユーロでは円高となり、影響を打ち消し合っている事が要因か？

A9：今期の営業利益における為替感応度は、米ドルが 1 円変動につき 1 億円、ユーロが 2 億円と見込んでいる。当四半期の期中平均レートでは、米ドルが 19 円の円安、ユーロが 6 円の円高となった結果、計算上若干の差はあるが、4 億円のプラスの影響が出ている。血液システムカンパニーでは、米国で生産した製品を欧州に輸出しており、対ドルでのユーロ安が、マイナスの影響を与えている。

Q10：本日発表した自己株式取得の目的は？今後の自己株式取得の方針は？

A10：持ち合い解消に伴う自己株式取得である。現時点で公表できる方針はない。

以上